

令和3年度 第1回みどりの委員会 南流山中央公園再整備 設計報告

上位関連計画

ニーズ調査

現地踏査

公園をとりまく現状・課題

歴史	<ul style="list-style-type: none"> 南流山の区画整理と共に昭和55年に開園。40年以上が経過し、時代に適応した施設・機能の見直しが必要。 公園内は老朽化した施設が見えられ、改修が必要。 	歩行者動線	<ul style="list-style-type: none"> 園路は一部途切れており、園内を周遊できず回遊性が低い。 事後的にできたけもの道があり、車いすや高齢者の方が利用しづらい部分がある。 駅からの動線を考慮すると南側入口が最も近いエントランスとなり、利便性の向上が求められる。
利活用	<ul style="list-style-type: none"> 主な利用者は周辺地域住民。 広場は少年野球やグランドゴルフ等、利用方法が限られており、多様な公園利用が求められる。 地域の納涼祭が開催され、今後も開催が予定される。 住民による清掃活動等の地域活動の参加が多い一方で、公園の花壇が放置されていることから、地域と共に公園の維持管理を考えていく必要がある。 	景観	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな緑、大きな広場があることが当公園を印象付ける要素となっている。 納涼祭を開催する風景も南流山地域の特徴づけている。
植栽	<ul style="list-style-type: none"> 緑が豊かで公園を取り囲むように植樹され、公園の魅力となっている。 公園の魅力の一つである桜に元気がなく、植替え等を検討する必要がある。 成長した高木や低木が園内の見通しを阻害しており、暗い印象があるため、見通しの改善が求められる。 藤棚は公園の魅力となりうるものの、維持管理が行き届いていない。 	防災	<ul style="list-style-type: none"> 指定緊急避難場所やドクターヘリの発着場所に位置付けられていることから、当機能の維持が必要となる。 洪水時の車両避難場所としての機能維持が必要。
		バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> 公園のエントランス、園路はバリアフリーに対応していないため、改修時には対応した整備が求められる。 駐車場は解放されておらず、周辺道路への路上駐車が散見され、注意喚起等が必要。 既存トイレはバリアフリー対応しておらず古いため、更新時に対応が必要。

コンセプト … インクルーシブパークの発展的実現のための公園リノベーション

方針1
誰もが使いやすいインクルーシブな公園デザイン

- エントランス空間をバリアフリー化し、誰もがやすく、入りやすい公園空間とする。
- インクルーシブな遊具広場を設け、多様な人が楽しめる空間を形成する。
- 既存利用だけでなく、様々な公園利用を受容できる広場のトータルデザインとする。

方針2
利活用を促し、新たな賑わいを創出する場所づくり

- 周回園路を設けると共に、園内の駅への動線を確保する。
- ピクニック広場（芝生広場）を配置し、新たな賑わい創出を図る。
- 北側エントランスを改修し、将来の利活用を促す基盤とする。
- 納涼祭が開催できる広場スペースを確保する。

方針3
公園の魅力である豊かな緑空間の維持・向上

- 公園の見通しを考慮した樹木の間引きを行い、適切な緑の量を維持する。
- 樹木の入替え(サクラ等)を検討し、緑空間の質の向上を図る。
- 藤棚は適切な管理を行い、魅力的な空間形成を行う。

方針4
公園の見通しや適切な照度の確保

- 主要な箇所において防犯上必要な照度を確保する。
- 公園エントランスの改修及び低木植栽を整理することで見通しの改善を図る。

方針5
公園の魅力を生かした景観形成

- 公園の魅力である「豊かな緑」や「大きな広場空間」を継承した景観形成を図る。
- 水景施設跡の石組みや地形を生かした探索エリアを設ける。

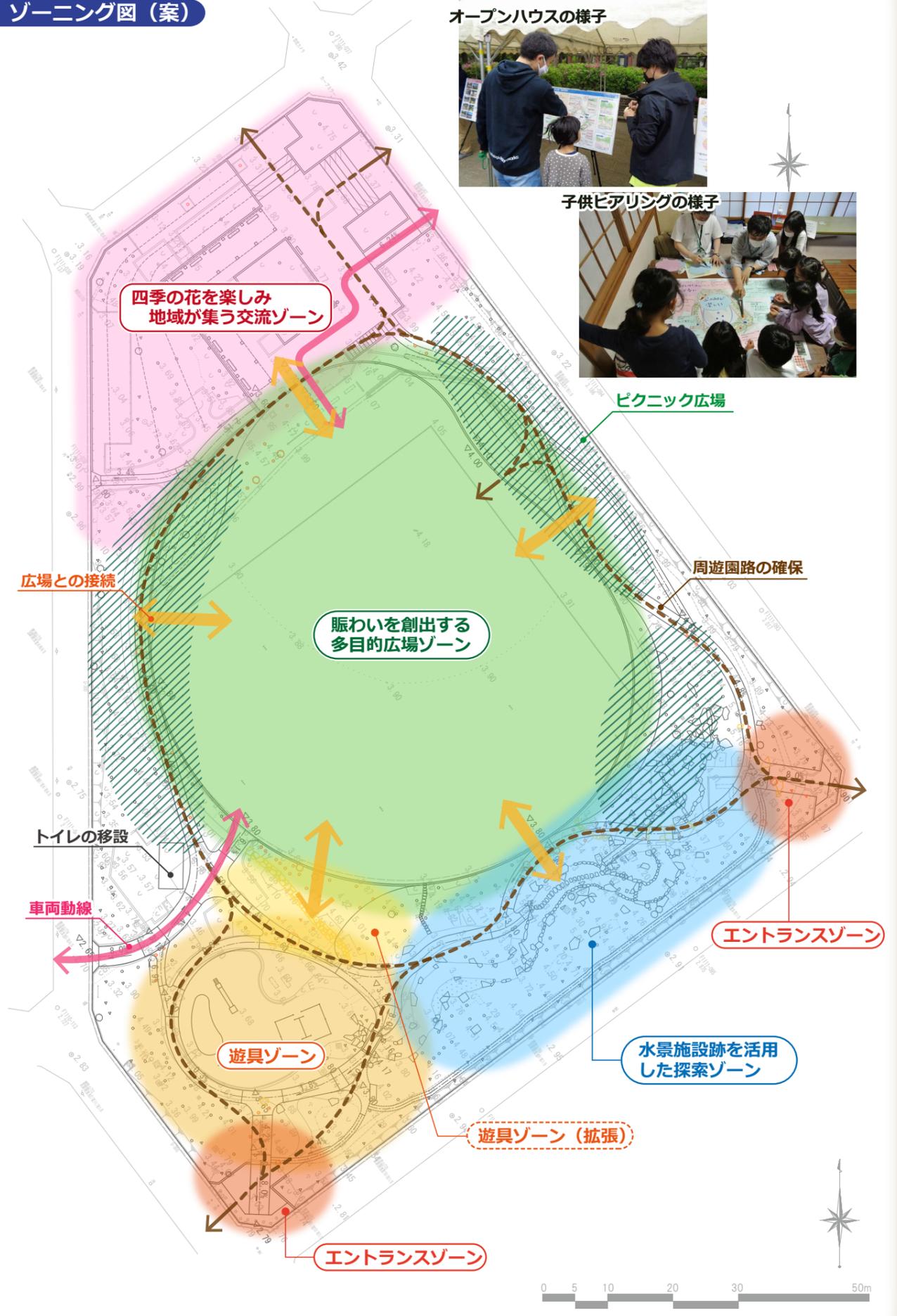
方針6
災害時の避難経路、滞在スペースの確保

- 緊急避難場所として、明瞭な避難経路を確保する。
- 洪水時の車両避難動線を確保する。
- ドクターヘリ発着が可能な広場スペースを確保する。

方針7
安心安全に配慮したユニバーサルデザイン

- 総合案内板等のサインによる、適切な案内・誘導を行う。
- 利便性に考慮し、遊具広場周辺に多機能トイレを新設する。

ゾーニング図(案)



中央資料2 (令和3年8月3日時点の情報です)

オープンハウスの様子



子供ヒアリングの様子



ピクニック広場



